

ESA ディスク I/O 使用率の統計情報の概要

目次

[概要](#)

[ディスク I/O 利用](#)

[統計情報を表示して下さい](#)

[ディスク I/O 利用 ゲージ](#)

[使用中のディスク I/O 利用 統計情報](#)

概要

この資料は Cisco E メール セキュリティ アプライアンス (ESA) の AsyncOS のためのディスク I/O 利用統計情報の意味を記述したものです。

ディスク I/O 利用

このセクションは ESA でディスク I/O 利用統計情報の外観を提供します。

統計情報を表示して下さい

ディスク I/O 利用統計情報は GUI および CLI 両方から ESA でアクセスすることができます:

- ESA GUI からのディスク I/O 利用統計情報を **監視するために表示するために**、ナビゲート > システムの **概要**。
- 統計情報を CLI によって表示するために、ステータス **detail** コマンドを入力します。

ディスク I/O 利用 ゲージ

ディスク I/O 利用 ゲージはシステムが最後の再度ブートする以来見ていたパーセントとしての最も利用度が高いです。このゲージは既知の値のスケールに対して読み取りを表示する。むしろ、それはシステムがこれまでに参照した表示する、最後の再度ブートする以来の最大値に対してスケールリングします I/O 利用を。このようにゲージが 100% を表示する、システムはので (必ずしもシステム全体の物理的な ディスク I/O の 100% を表さないかもしれない参照される) ブート I/O 利用の最高レベルを経験します。

システム スケーリング アルゴリズムが最大の上で調節するように起動し、見る高負荷を、ディスク I/O 利用 ゲージ達することができる最近あってしまったただ以上 100% の。長期に、ディスク I/O 利用はシステム ピークが珍しく、平均ディスク I/O 利用統計情報の下で駆動しがちであるのでスムーズになりがちですがまた 100% より多くの下部のでありがちです。

使用中のディスク I/O 利用 統計情報

システムがリソース 保存 モードにならなければ、そして安全にこれらの統計情報を無視できません。ディスク I/O 利用は時間の長時間の間 100% でまたはその近辺で動作することがわかれば、これらの可能性の 1 つを示します:

- 制限に I/O サブシステムを駆動しています。
- 多くを変えない非常に一貫したロードがあります。

それらを受け取る程にメッセージをすぐに処理し、提供できないことを示すリソース 保存 モードになるかどうか確かめるためにシステム経験したり、監視するか 2 つの可能性のどれ判別するため。

注: リソース 保存 モードを開始します場合がある帯域幅が制限されした I/O サブシステムのほかの他の原因があります。